様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年　6 月　6 日現在

機関番号：35314
研究種目：基盤研究（Ｃ）
研究期間：2009～2011
課題番号：21530859
研究課題名（和文）　小学校における学級経営支援・評価システムの構築に関する開発的研究

研究課題名（英文）Development research of support-assessment system for class-room management in elementary school.

研究代表者
中田　正浩（NAKADA MASAHIRO）

研究者番号：10461261

研究成果の概要（和文）：
ピアサポート型の支援体制を構築するには、外部人材の導入および、教員の労務軽減によるゆとり創出が必要であること。保護者の家庭における教育的働きかけを積極的に促すこと。また、教員個々の状況やニーズに対応可能な、柔軟な評価指標（特に人間関係面）に焦点化した基準づくりが有効であるということが明らかになった。
加えて教育現場の諸問題にも取り組み、“ネットいじめ”や“教育実習”、“非行”など、広範囲に亘る研究となった。

研究成果の概要（英文）：
The creation of a peer-support system requires the cooperation of teaching staff in addition to those less directly related to the school. The educational environment in the home always plays and influential part. Developing the scale for assessment of class-room management, it is clear to focus on individual teacher situations, as well as the relevant needs (particularly relating to personal relations).
This research addresses these issues from a teaching standpoint, as well as related issues such as net-bullying, and delinquency.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2010 年度	600,000	180,000	780,000
2011 年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総　計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：教育学・教育学
キーワード：学級経営

１．研究開始当初の背景
近年の小学校の学級は、学級崩壊や授業崩壊、いじめ、不登校などの諸問題が集積される場にもなっている。さらにクレームを付ける保護者の増加など、学級経営をめぐる情況変化は著しく、コミュケーションに自信を失い、心身を病んで教壇を去る教員も少なくない。また新任教員が悩んだ末に自殺するとい

ったケースも起きており、“一国一城の主”といわれてきた担任教員単独で行われる学級経営の構造的脆弱性が露見している。その一方で、学級経営はベテラン、新任の別なく同じ立場からスタートするという特殊性を持っており、容易に独善や孤立に陥る危険をもはらんでいる。そのため、管理職や同僚教員らによるコンサルティングや、地域・保護者との連携といった“開かれたスタンス”が必要であるものの、学級経営というレベルで顕在化した研究や取組みが十分行われているとは言い難い現状があった。そのため、学校・地域・保護者の連携による拡大ピアサポート型の学級経営支援システムの構築および学級経営評価システムの開発による、事態打開に向けた研究が必要であると構想された。

２．研究の目的

本研究の目的は以下の３点である。

（１）拡大ピアサポートを実現するため、まず第一に“開かれた学級づくり”のスタンスが必要となる。そのため、小学校内の同僚や管理職の間のコミュケーションはもちろん、保護者や、学校と関わりのある地域住民をも巻き込んだ“共同体”をつくることによる、“拡大ピアグループ”を形成すること。

（２）子どもたちが小グループを形成し、協力し合いながら学習する“学びの共同体”を成立させることにより、集団成員性を高め、学級経営を促進すること。

（３）ピアサポート体制を構築するだけでなく、その体制が学級経営にどのように寄与しているか、また教員自身の実践がどうであるかを可視化する具体的な評価指標を開発すること。

３．研究の方法

（１）岡山県内の２小学校、および大阪府堺市内の２小学校と協力し、岡山、大阪各１校において、拡大型ピアサポート実現に向けた検討会を行った。その中で、地域ごとに生じている学級経営上の課題や保護者の実態、また地域社会の現状など、多方面にわたる検討を行った。

（２）検討をもとに、岡山県内のさらに２校と協力関係を結び、教員たちに対して学級経営における問題点や必要と感じるサポート、労務とストレスの関係性などに関する聞き取り調査を行った。

（３）調査結果を踏まえ、現実性および実現可能性の高いサポートの在り方をまとめ、再び検討会にフィードバックする、という手法を中心に、研究デザインの修正を加えつつ進行した。

４．研究成果

本研究の成果は次の３点である。

（１）教員および管理職への調査から、ピアサポート型の支援体制を構築するには、学校内への外部人材（特に教職員向けメンタルサポート）の導入によるサポート専門ポストの創設および、教員の労務軽減によるゆとりの創出が必要である。それには学校週５日制の撤廃も可能性として考えられる。

（２）また子どもたちの“学びの共同体”づくりについては(1)と同様に、良好な人間関係の形成とゆとり創出に加え、保護者の家庭における教育的働きかけを積極的に促すこと、学校へのコミットメントを増加させることが効果的であるということが判明した。

（３）学級経営を評価する指標については、個々の状況やニーズを吸収可能な、柔軟かつ簡潔な評価指標（特に人間関係の維持・形成）に焦点化した基準づくりが現実的な意義を持ち得るということが明らかになった。

さらなる成果については、研究機関が終了した現時点においても、なお努力を継続している所である。

なお、加えて本研究では、派生的に明らかとなった教育現場の諸問題にも取り組み、その成果は分担者浅田(山崎)の“ネットいじめ”に関する業績などに結実している。また分担者小島は本研究の知見を学部の教育実習に還元し、さらに分担者松岡は学級経営の妨げになりがちな非行の問題について論を深め、代表者中田は、本研究から得られた知見を教科書執筆に盛り込むなど、当初の見込みより広範囲に亘る研究枠組みとなった。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

①小島喜孝，学部教職課程における教育実習の状況，リベラルアーツ，査読無，1 巻，2011，28-39.

②浅田(山崎)瞳，ネットいじめの実態に関する実証的研究，関西教育学年報，査読無，35 巻，2011，161-165.

③松岡律，“キレる 17 歳”とは何だったのか－若者の逸脱をめぐる言説の足下，人権 21，査読無，213 巻，2011，9-14.
④小島喜孝，児童自立支援施設における公教育導入の諸問題，司法福祉学研究，査読有，10 巻，2010，95-106.

〔学会発表〕（計５件）
① 原清治・浅田(山崎)瞳，ネットいじめの要因に関する実証的研究（Ⅰ），日本実践教育学会第 14 回大会，2011 年 11 月，佛教大学.
② 山崎瞳他，実践的教員養成がもたらす効果に関する実証的研究，東アジア教師教育研究国際大会，2010 年 12 月，香港教育学院.
③ 原清治・山崎瞳・堀出雅人，ネットいじめの実態とその抑止策に関する実証的研究，日本実践教育学会第 12 回研究大会，2009 年 11 月，岡山大学.
④ 山崎瞳・原清治，ネットいじめの実態に関する実証的研究（Ⅰ），関西教育学会第 61 回研究大会，2009 年 11 月，大阪樟蔭女子大学.
⑤ 小島喜孝，児童自立支援施設における公教育導入をめぐる諸問題，日本司法福祉学会，2009 年 8 月，立正大学.

〔図書〕（計４件）

① 中田正浩，大学教育出版，次世代の教職入門，2011，297.
② 浅田(山崎)瞳（原清治・山内乾史編），ネットいじめはなぜ「痛い」のか「第 3 章 ネットいじめはどのような要因によって発生するのか」，ミネルヴァ書房，2011，224.
③ 中田正浩他，教職論―教員を志すすべてのひとへ，ミネルヴァ書房，2009，252.
④ 小島喜孝、平原春好他，概説教育行政学，東京大学出版会，2009，280.

〔産業財産権〕
○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
なし

６．研究組織
(1)研究代表者
中田　正浩（NAKADA MASAHIRO）
環太平洋大学・次世代教育学部・教授
研究者番号：10461261

(2)研究分担者
松岡　律　（MATSUOKA TADASHI）
環太平洋大学・次世代教育学部・講師
研究者番号：60454857

山崎　瞳　（YAMASAKI HITOMI）
佛教大学・教育学部・非常勤講師
研究者番号：80454859

小島　喜孝（KOJIMA YOSHITAKA）
近畿大学・生物理工学部・教授
研究者番号：50142766

(3)連携研究者

なし